○真野長者の話

むかし、桜平山に真野長者が住んでいて、そこにはおっかねえ人食いベゴがいたんだと。

ある日、一人の若い人がきたがら、このベゴの人ばしらにしようとしたら、その若い人は、ベゴとほっぺたをくっつけてベゴ小屋さいたんだと。あるとき、長者の一人むすめが重い病気になったんだと。ほしたらほの若者が病気を治すために八幡さまさ流鏑馬をほうのうしたっけ、むすめの病気は見る見る良くなったんだと。

病気の治ったむすめは、ほの若者のごと、うんと好きになってしまったんだと。ほんで、若者はこまってしまい、本当は欽明天皇の皇子で、みちのくのようすを調べさ来たごとを、むすめに話したんだげんちょ、むすめはウソこいでると思ってかってに宮城県の方さ家を作っていっしょにくらしたんだと。んだげんとも皇子は、むすめと子どもを残してさっさと都さ帰ってしまったんだと。むすめと子どもは皇子が帰ってくるのを待っていたんだげんちょも、病気で死んでしまったんだと。ほしたら、ほの後、むすめと子どもは二羽の白鳥さなってとんで行ったんだと。

桜平山

○降居姫の話

むかしのこと、天上に降居姫というとてもきれいな姫がいたんだと。姫は地上で炭を焼いている若者をむこにもらうことになったんだと。ほんで、姫が若者を迎えさ行くと若者は「私は、地上の者で天さ上がることはできね」と言ったので、姫は「柴を千束集めて燃やすと、ほの内でっけい竹の子がでてくる。ほれを伝わって上に上がってきて」と言ったんだと。

若者は、さいしょの内は失敗したが、姫に会いたくていっしょうけんめい上がったら天に上がることができたんだと。二人は幸せにくらしていたげんちょも姫の両親が若者をきらったので、二人は手を取り天の川をわたったんだと。ほしたら、川の流れが急だったので、若者のすがたは見えなくなってな、姫だけが今の岡和田さ流れついたんだと。 村の人たちは、姫を気のどくに思ってな、降居神社をまつったそうな。

降居神社

このような、むかし話や伝説を「民話」といいます。これらは昭和57年に上真野中学校でまとめた「上真野の伝説」をもとにしてあります。

みなさんの近くにもいろんなむかし話があると思いますので、おじいさんやおばあさんにぜひ聞いてみましょう。